



ふじだな



No.36

令和8年1月9日
大阪市立野田小学校
校長 川辺 智久

大きく前進する1年に

明けましておめでとうございます。

令和8年が始まりました。

今日は始業式を行いましたが、子どもたちの元気な笑顔に出会えたことに、うれしく思いました。冬休み中、各ご家庭、地域の皆様のご協力のおかげで、子どもたちが大きな事故や事件に巻き込まれることなく元気に過ごすことができました。ありがとうございました。



今年は午年です。「午」は「馬」のことですが、馬は、常に前進する動物であり、後ろを振り返らずに前へと進むその姿から、前向きなエネルギー・成長・飛躍・繁栄のシンボルとして親しまれてきました。また、馬は「願いを届ける存在」「福を運ぶ動物」として、縁起が良いとされてきました。今でも多くの人々が初詣で「絵馬」を奉納するのは、馬が神様の使いとされていたことに由来します。令和8年が、野田小学校の子どもたち、保護者・地域の皆様方にとって、これまで以上によい年になりますように。

「馬」というと、「人間万事塞翁が馬（にんげんばんじさいおうがうま）」ということわざがあります。昔、中国の塞翁（さいおう）という人が飼っていた馬が逃げたため、人々が慰めに行くと、塞翁は「このことが幸いを呼ぶかもしれない」と悲しむ様子はありませんでした。その後、逃げた馬が別の立派な馬を伴って戻ってきたということです。つまり、「目の前のできごとだけで、すぐに良い・悪いを決めることはできない」という意味です。私たちは、うまくいかなかつたとき、「失敗だった」「ついていなかつた」と感じてしまいがちです。しかし、その経験があつたからこそ、考え方が変わったり、新しい道が開けたりすることもあります。逆に、順調に進んでいると思っていたことが、あとになって大きな課題につながることもあります。だからこそ大切なのは、結果だけに一喜一憂せず、今できることに誠実に向き合うこと、ということです。今年もいろいろなことがあると思いますが、「人間万事塞翁が馬」の言葉を思い出し、前を向いて歩んでいきたいものです。

さて、昔からよく「1年の計は元旦にあり」と言われます。元旦と言うのは、1月1日の朝のことです。この「計」という言葉は「計画」のことです。「物事を始めるときには、きちんと目

標を決めて、計画を立てて取り組みましょう」という意味の言葉です。すでに今年はこんなことをがんばりたいな、と考えている人も多いと思います。子どもたちには、ぜひ今年1年の目標を立てて、その目標が達成できるように日々の生活を送ってほしいと思います。



本年も、野田小学校が子どもたちにとって大切な成長の場となるよう教育活動に取り組んでまいります。本校の教育活動へのご理解と変わらぬご支援を、どうぞよろしくお願ひいたします。

【社会見学（4年生：市立科学館）】11月14日（金）

学校から中之島までてくてく歩き、市立科学館に行きました。到着してすぐにプラネタリウムを見ました。大きなドーム型のスクリーンにたくさんの星が映し出され、子どもたちは夢中になって見ていました。前半は、太陽の動きの話、後半は星や星座の話でした。プラネタリウムを見たあとは、グループで館内を見学しました。館内は、科学を身近に楽しむための工夫を凝らした展示がそろっています。天体や科学を身近に感じができるいろいろな展示を見て、理科学習への関心がますます高まったことでしょう。



【音楽鑑賞会】11月17日（月）

ムジカフィルハーモニー管弦楽団の皆さまをお招きして講堂で音楽鑑賞会を行いました。

前半は、1～3年生が鑑賞しました。オープニングの「ドレミのうた」は、オーケストラに合わせてみんなで楽しく歌いました。「楽器紹介」では、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器の順に楽器の名前と音色を教えていただきました。「おもちゃの交響曲」では、子どもたちタンバリンやトライアングル、ウッドブロックなどの楽器でオーケストラと一緒に演奏しました。アンコールの「狩りのポルカ」では、狩りをする鉄砲の音の代わりに、風船を割って表現していました。

後半は、4～6年生が鑑賞しました。「情熱大陸のテーマ」や「剣の舞」など、子どもたちもよく知っている曲をたくさん演奏していただきました。また、オーケストラに合わせて、「ビリーブ」をみんなで合唱したり、「ラデツキー行進曲」では子どもたちが指揮者に挑戦したりしました。オーケストラの共演することは、めったにない貴重な経験ですね。

オーケストラの美しい音色に魅了され、楽しいひとときをすごしました。

